

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名・第三者評価実施日

株式会社 評価基準研究所	第三者評価実施日：令和7年11月18日
--------------	---------------------

② 施設・事業所情報

名称： 社会福祉法人 常照会 慈光保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：川島 和恵	定員： 68 名
所在地： 〒879-0471 大分県宇佐市四日市1410-2	
TEL：0978-32-7381	ホームページ：https://www.jikou-h.jp/

③ 総評

◇評価の高い点

充実した遊びのコーナーが設置されており、子どもたちが主体的に遊び込める豊かな環境を整えている

本園では、子どもが主体となり、自ら考え行動する力を育む保育を大切にしている。そのために、本園は6年前からそれまでの保育のあり方を見直し、改善を重ねてきた。今では、子どもたちが自分の意思で玩具を手にとって遊ぶことのできるコーナーが豊富に用意されており、遊びの種類も一人ひとりの発達に合うよう配慮されている。また、子どもたちの遊びが充実するよう保育者も穏やかに子どもたちを見守りながらも遊びのきっかけを作ったり、より楽しく遊ぶためのコツを一緒に遊ぶ中で伝えたりしている。物的環境と人的環境の充実が、子どもたちの主体性を育てている。

理念を体現する保育動線の構築により、子ども主体の保育を現場で支えている

本園では、「遊びの中で主体性を育てる」という理念の実現に向け、物的環境の在り方を保育実践と結び付けている。子どもに教えるのではなく、見守りながら遊びを支える保育を行うためには、職員の子どもと向き合う時間の確保が必須である。本園ではその視点から保育動線の検討が重ねられている。令和五年の園舎建て替え時に、園庭からトイレへの最短動線など、子どもの行動を妨げにくい設計を随所に取り入れた。築後、実際の保育を通じ把握した改善点には追加工事も行った。子ども主体の保育を実現するための園の一貫した姿勢がうかがえる。

自主性を引き出す職員環境整備が、安定した園運営を支える基盤となっている

本園は、職員専用出入口の設置に加え、十分な広さを確保し園児とのノンコンタクトタイムを保障した休憩室やシャワールームを整備することで、職員が心身を切り替える時間を確保できる環境が整えられている。また、職員のみが必ず通る動線上に掲示を集約し、情報共有の漏れを防ぐ工夫もなされている。こうした休息環境と情報共有環境の両立は、職員の自律的な行動や前向きな保育実践を支え、園全体の安定的な運営と保育の質向上に繋がっている。働きやすさを重視した環境整備が、組織の力を引き出す好循環を生み出している点は、本園の特長である。

今後さらに期待される点

理念の言語化と保育実践への接続をさらに深めていく重要な段階にある

園長は理念の言語化の重要性を認識し、園内での整理や発信に取り組んでいる。理念の実現には、①理念の明確化、②共有の為の言語化、③保育実践への落とし込みという段階があり、現在本園は②を進めながら③への接続を模索している段階にある。言語化についても一定の取組は見られるが、職員間での理解をさらに揃える余地は残されている。一方、子どもへの関わりや環境構成など、理念が部分的に実践へ反映されている場面も確認できる。今後は、言語化の深化と実践との往還を重ねながら、理念が保育の判断や行動として定着していくことが期待される。

一人ひとりの発達や個性を尊重した保育の実践には、まだ改善の余地がある

本園では、子どもたち一人ひとりの発達や個性を尊重した保育の実践に取り組んでいる。そのため、本園の強みであるコーナー保育では、一人ひとりの発達に配慮される玩具が常に配置されるように、おもちゃの入れ替えにも力を入れている。一方で、午睡の時間では、4歳児クラスの子どもは原則的にすべての子どもが横になるように促してきたが、その子に合わせた柔軟な姿勢で向かうことを職員間で申し合わせている。また、5歳児クラスでは午睡が必要な子どもには午睡しても良いように設定されている。生年月日で子どもの過ごし方を大人が決めてしまうことを避け、一人ひとりの発達や個性から考える視点をさらに育み、「個別最適な保育」のさらなる実現に期待したい。

「子どものため」を軸とした保育実践を継続的に問い直し続けていく姿勢が期待される

本園では、「子どものため」という視点を保育における重要な判断基準として位置づけ、日々の保育実践や環境づくりに丁寧に向き合っている。この姿勢は、本園の保育の質を支える大切な土台となっている。一方、どの保育現場においても起こり得ることとして、子どもの安心や安定を願って導入された手法が、時間の経過とともに手段そのものを維持することが目的になってしまう点があげられる。本園は、現在大切にされている実践を基盤としながら、目的に立ち返る対話と検討を重ねていくことで、「子どものため」の保育をさらに深化させていくことが期待される。

④第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

○ 私たちが行っている保育は第三者から見た時、どうなのか？課題や問題点はどこなのか？を客観的にみていただきたいという思いで、ご依頼させていただきました。とても真摯に評価していただき、今後につなげていきたいと思える学びがたくさんありました。ありがとうございました。

○ ABC評価の結果とコメントの内容が一致していないため（「B」でもコメントは高評価）今後どのように改善していけばよいのかが不透明。また、閲覧ではABC評価のみ表示されるので、閲覧者からそれだけで評価されてしまうことが残念である。

○ 保育内容や子育て支援、経営、運営、職員の働き方、福祉サービス等、広範囲にわたってアドバイスをいただいたのですが、総評での改善点では午睡と食事の提供の仕方の記述が主だったので、もっと総合的な評価と、改善の仕方をご指導いただきました。ありがとうございました。

⑤第三者評価結果
別紙のとおり